

立山町名誉町民

(推挙年月日順)

	推挙年月日	フリ 氏	ガナ 名	生年月日 (没年月日)	功 績
1	昭和 52 年 6 月 4 日		サエキ ムネヨシ 佐伯 宗義	明治 27 年 2 月 28 日 ～ 昭和 56 年 8 月 4 日	昭和 2 年越中鉄道(株)取締役役に就任以来、鉄道事業に貢献されるとともに郷土立山の観光開発事業に力を注ぎ、昭和 39 年に立山黒部貫光(株)を設立、昭和 46 年 6 月 1 日に立山黒部アルペンルートの全線開通の偉業を行うなど国際観光地への躍進に尽力されました。 昭和 22 年以来、衆議院議員に 8 回当選し、国政に参与され、その功績により、勲二等瑞宝章、勲二等旭日章を受章。
2	昭和 62 年 9 月 25 日		タカセ シゲオ 高瀬 重雄	明治 42 年 3 月 25 日 ～ 平成 16 年 11 月 14 日	京都帝国大学文学部を卒業後、大学教授・文学者として活躍。特に立山信仰についての歴史的研究も多く、これらの著書により広く立山を全国に紹介、昭和 43 年 4 月から昭和 59 年 3 月まで立山町史編さん執筆委員、監修者として尽力されました。 昭和 56 年に勲二等瑞宝章、富山県文化功労章を受章。
3	昭和 62 年 9 月 25 日		サエキ ショウイチ 佐伯 彰一	大正 11 年 4 月 26 日 ～ 平成 28 年 1 月 1 日	東京帝国大学文学部を卒業後、ミシガン大学客員講師、大学教授、国際的文化人として活躍し、日本文学の進展に尽力されました。 また、アメリカ文学の研究においても、すぐれた成果をおさめられました。 昭和 54 年に読売文学賞、昭和 56 年に第 38 回日本芸術院賞、昭和 61 年に「自伝の世紀」で芸術選奨文部大臣賞を受賞。
4	平成 12 年 2 月 10 日		タカヒラ キミトモ 高平 公友	大正 3 年 7 月 18 日 ～ 平成 12 年 2 月 10 日	昭和 26 年雄山町議会議員に初当選され、その後、立山町議会議員として市町村合併等に努力されました。 昭和 34 年県議会議員に初当選、18 年余りにわたり県議会議員として活躍されました。昭和 52 年 7 月に参議院議員となり、12 年にわたり国政の場で手腕を発揮され、参議院内閣委員長等要職を歴任、富山空港のジェット化や北陸新幹線の早期着工に尽力されました。 平成 2 年に勲二等瑞宝章を受章。

5	平成 17 年 10 月 14 日		トガシ セイジ 富樫 清二	大正 8 年 7 月 11 日 ～ 平成 17 年 10 月 12 日	町議会議員 4 期、町助役 1 期を経て、昭和 57 年に立山町長に初当選以後、連続 5 期 20 年にわたり町政の舵取り役を務められました。 平成元年に「みどり維新の町」を宣言し全国にみどりの大切さを訴え、日本の滝全国協議会初代会長を務めるなど、観光施策に尽力されました。 また、環境施策にも積極的に取り組み、リサイクル品の売却利益を町民に返す全国初の「立山方式」を確立しました。 平成 14 年に勲四等旭日小綬章を受章。
6	令和 6 年 12 月 18 日		バンドウ マリコ 坂東 真理子	昭和 21 年 8 月 17 日 ～	東京大学を卒業後、総理府に入府。内閣総理大臣官房参事官、埼玉県副知事、ブリスベン総領事、初代内閣府男女共同参画局長などの要職を歴任、退官後は昭和女子大学で学長、理事長、現在は昭和女子大学総長を務められています。 また、「女性の品格」をはじめとした数々の著書を出版。さらに、テレビ出演や執筆活動の際には、立山町出身ということで、町の知名度向上にも貢献されています。